

サービス紹介

「資本コスト」を意識した経営システム構築支援

【背景・概要】

- 2015年のコーポレートガバナンス・コードを契機に、資本コストという概念が定着しつつあり、2022年の東証市場再編と、その後のフォローアップを踏まえ、2023年3月に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」が東証よりリリースされたことから、上場企業は資本コストを意識した経営システムの構築が必要になりつつある。
- 資本コストの活用局面については、従来コーポレートガバナンス・コードで言及されてきた、投資や事業ポートフォリオにおける、ハードルレートとしての活用の他、近年では、資本コストから自社の企業価値・理論株価を推計し、時価総額や株価との比較で、経営課題を明確にしつつ、投資家とのエンゲージメントに利用されつつある

【ステップ・スケジュール】

概念設計

詳細設計・運用

定着化

執行・監督の双方で活用できる仕組みの構築

現状把握と活用局面の明確化

- 自社のWACC、ROIC等の状況把握
- 活用局面の可能性と課題把握

投資・事業PPMへの活用

- 資本コストを活用した投資基準・事業PPMのルール設計
- 実施・運用の体制づくり、試行

企業価値マネジメントへの活用

- 企業価値試算プロセス・分析方法の整備
- 分析結果の活用方法の検討

経営システムとしての定着

- 取締役会や経営会議での利用状況確認・改善策検討
- スムーズな運用のためのシステム化

【想定される期待効果】

ガバナンス強化

- 取締役での企業価値についての議論の活性化、実効性の向上

全社マネジメント強化

- 資本コストを意識することで選択と集中の強化と、投資意思決定力の強化

エンゲージメント強化

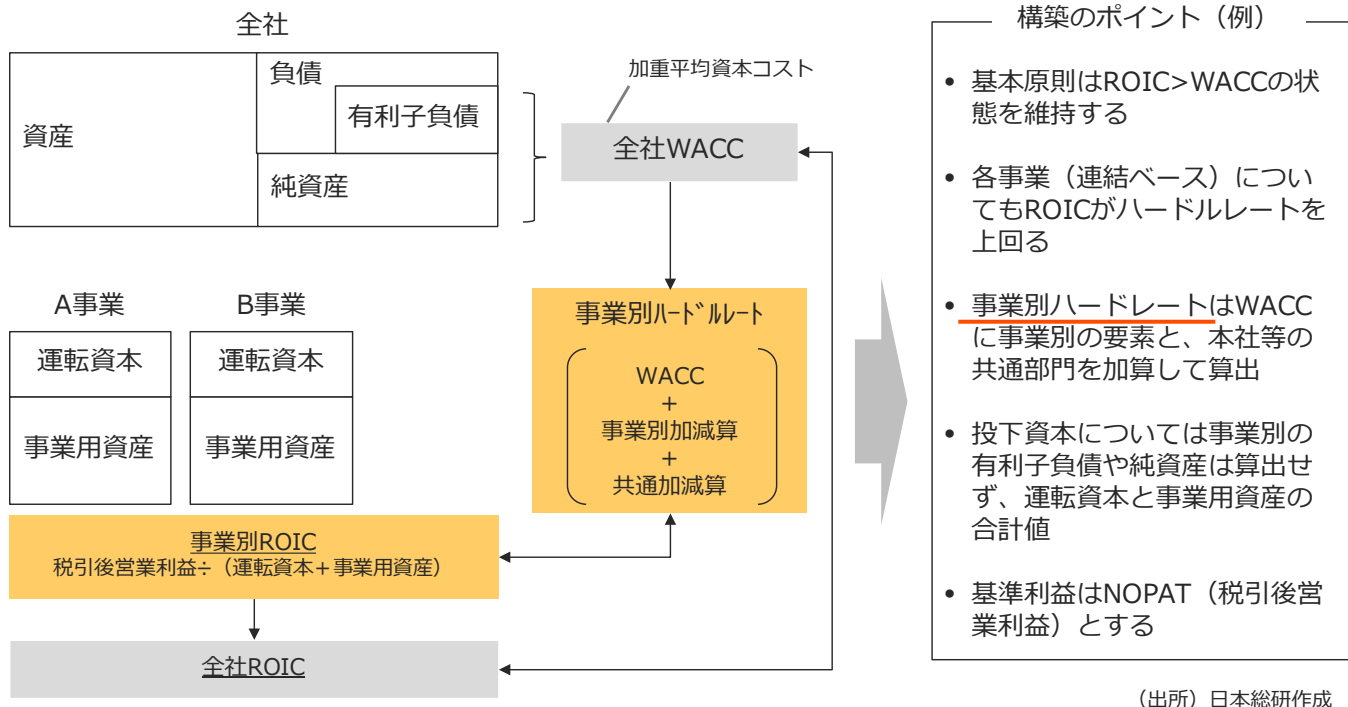
- 資本コストをベースに、投資家と企業価値についてより深い対話を実施

事業マネジメントとの連動

- ROIC > WACCをベースに、ROIC経営の事業への展開

資本コストを意識した事業ポートフォリオマネジメント

- 事業ポートフォリオマネジメントを円滑に運用するためのWACC・ROIC算定ルール設計を行うとともに、経営会議などの執行体制、および取締役会などの監督機関において、財務サイドの視点が偏らないよう、アジェンダセッティングや論点整理の方法についても事前に設計。



資本コストを活用した企業価値マネジメント

- 業績推移や事業計画をベースに、資本コストを用いて自社の企業価値・理論株価を算出。現在の時価総額や株価と比較することで、投資家視点からの、自社の経営課題を整理するとともに、FCFの期待水準を設定する。さらに、FCFを事業別に分解し、各事業やグループ会社のROICが資本コストを上回るような目標設定と、目標ROICをツリー分解することにより個別施策との連動を行うことで実効性を高める

